Ⅱ．調査の結果

第1章　日本大学学生の基本特性

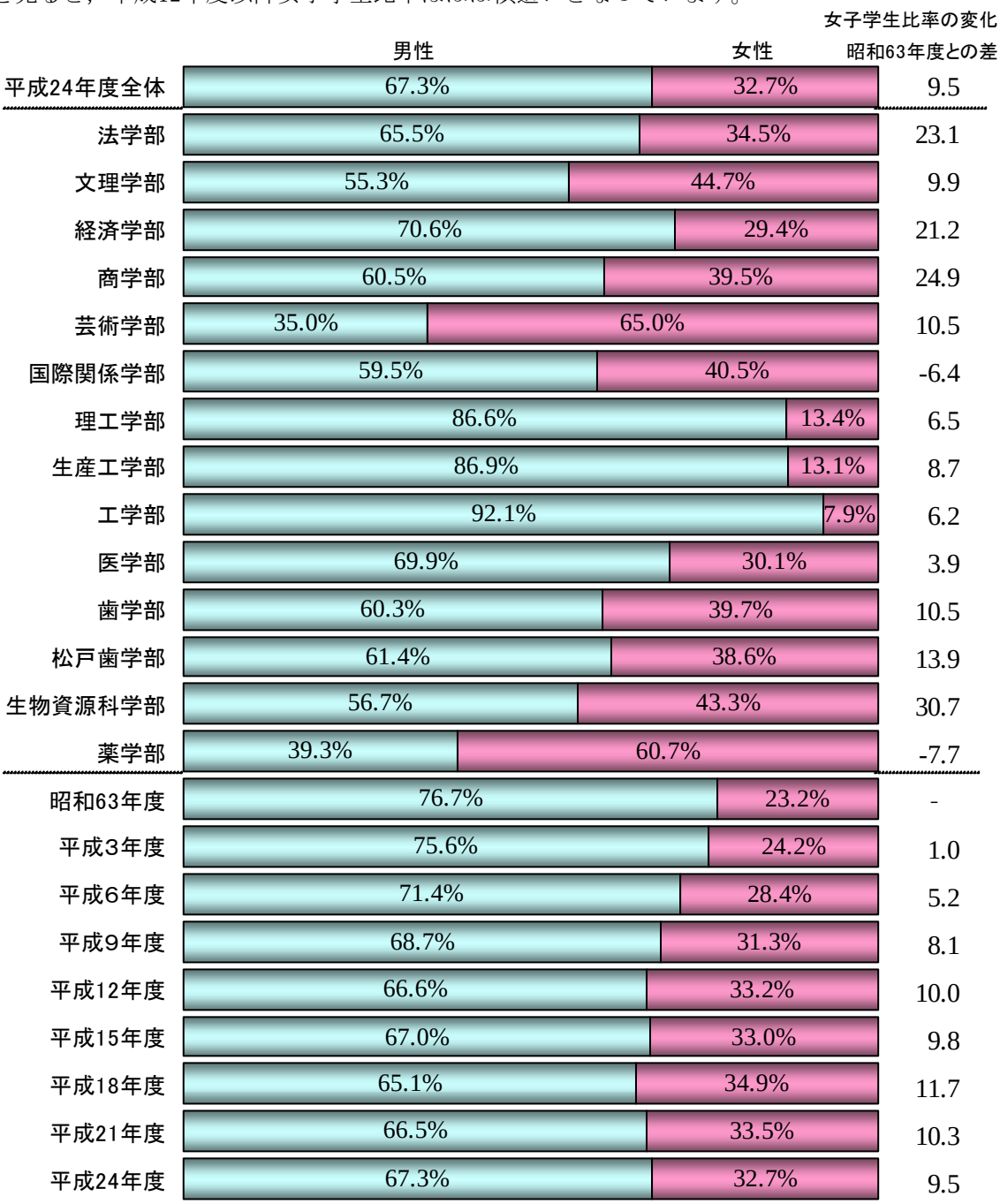
1.性別

女子学生比率は３割。２４年前と比較して，法学部・経済学部・商学部・
生物資源科学部で増加傾向が著しい。全体では平成１２年度以降横這い傾向。

本学の14学部全体（第一部のみ）の女子学生比率は32.7%でした。実際の女子学生比率は29.7%（平成24年５月現在の第一部在籍者）ですから，女子学生の方が調査協力率がやや高かったことになりますが，分析上支障のない範囲の偏りと考えられます。

学部別に見ると回答者の男女比は大きく異なり，女子学生比率が芸術学部と薬学部では60%を超え，工学部系（工学部・生産工学部・理工学部）では10%前後となっています。

第１回調査が行われた昭和63年（24年前）と比べると女子学生比率は9.5ﾎﾟｲﾝﾄ増加しています。法学部・経済学部・商学部・生物資源科学部では20ﾎﾟｲﾝﾄ以上の大幅な増加が見られます。経年変化を見ると，平成12年度以降女子学生比率はほぼ横這いとなっています。



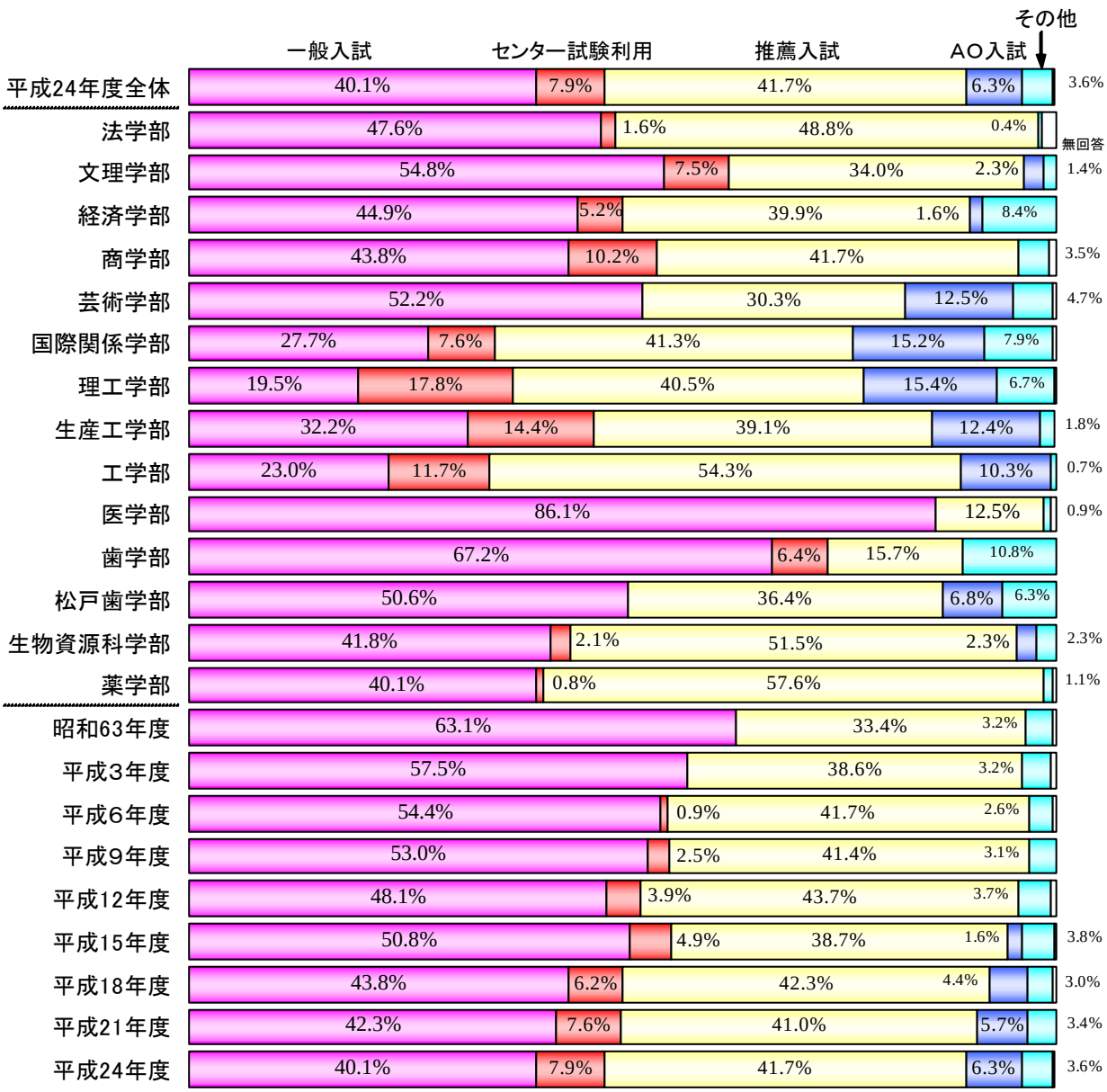
2.入学状況

一般入試と推薦入試による入学者が４割ずつ。
センター試験利用・ＡＯ入試の増加傾向が続き，入学形態の多様化が益々進む。

本学への入学状況を見ると，一般入試が40.1%，推薦入試が41.7%とほぼ同率となっています。平成４年度から採用されたセンター試験利用が7.9%，平成13年度から実施されているＡＯ入試は6.3%となっています。

一般入試入学の比率は，医学部が86.1%で最も高く，次いで歯学部（67.2%），文理学部（54.8%），芸術学部（52.2%），松戸歯学部（50.6%）の順となっています。推薦入試入学は，薬学部・工学部・生物資源科学部で50%を超えています。

経年変化を見ると，一般入試による入学者比率が減少し，センター試験利用とＡＯ入試入学が増加する傾向が継続しています。



3.出身高校

国･公立出身が42.0%。次いで日大付属高校出身が26.0%，私立高校出身が23.4%。
工学部は国･公立出身がほぼ３分の２，医学部・歯学部の過半数は私立高校出身。
私立高校出身者の比率は平成６年度から概して増加傾向。

本学学生の出身高校を見ると，国･公立が42.0%で最も高く，次いで日大付属高校（26.0%），私立高校（23.4%），他私立大の付属高校（5.3%）の順となっています。

工学部は国･公立高校出身が67.4%を占めています。一方，医学部と歯学部では，私立高校（付属以外）出身が過半数を占めています。薬学部は，日大付属出身が４割となっています。

経年変化を見ると，国･公立高校出身者は平成12年度から横這いが続いていましたが，平成24年度は2.2ﾎﾟｲﾝﾄ減少しています。一方，私立高校出身は，平成６年度以降概して増加傾向が続いています。

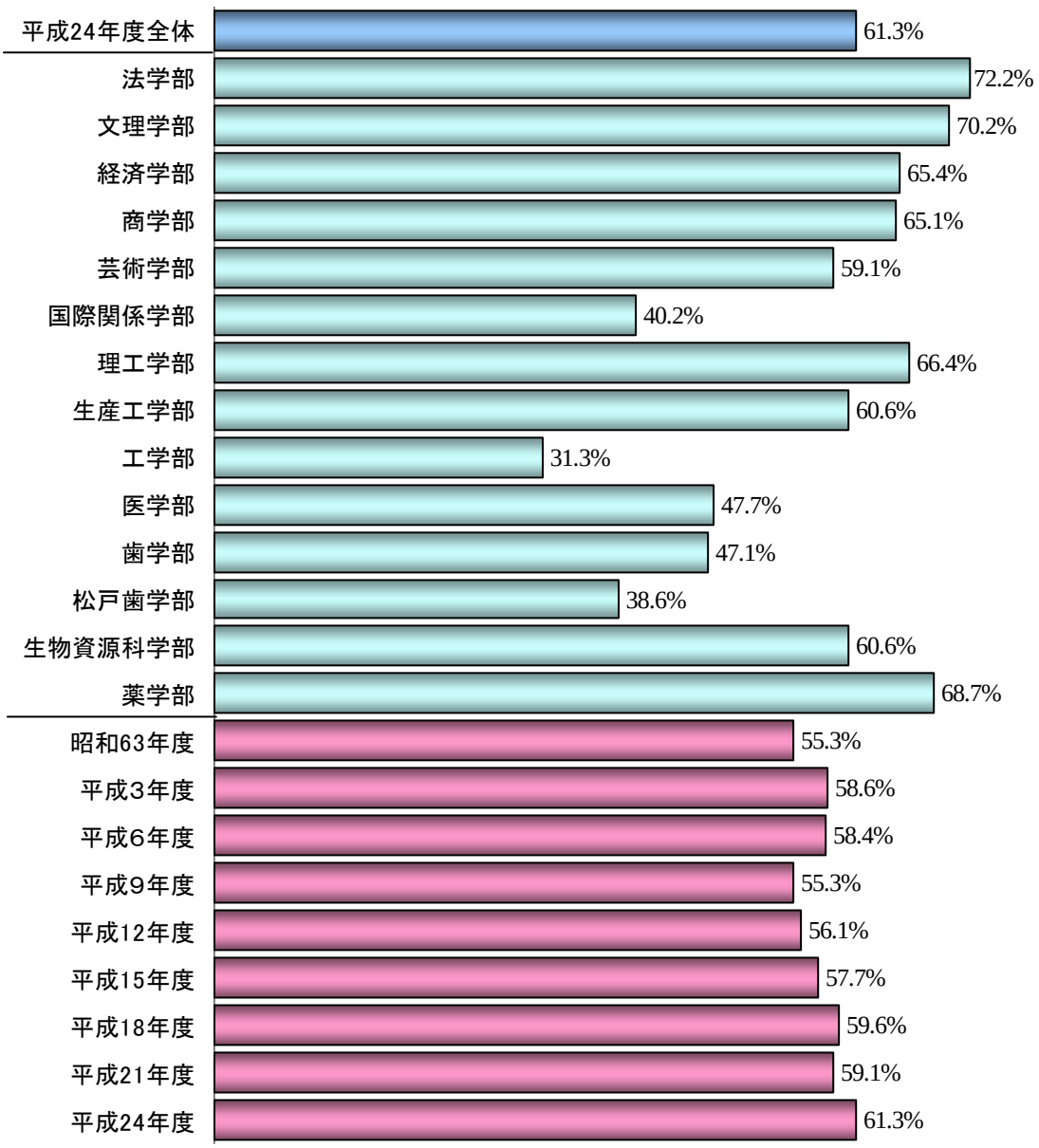
4.自宅通学者比率

自宅通学者比率は61.3%。首都圏外･郊外に所在する学部では４０%以下。
景気の長期低迷により、家庭の経済事情から自宅通学を選択する学生が増加傾向か？

住居形態について全体で見ると，自宅が61.3%で最も比率が高く，次いでアパート・マンションが32.5%となっています。食事つきの下宿・貸間・学生ハイツ等は2.4%とごく少数です。自宅通学者に焦点をあてて見ると，キャンパスが都心にある法学部と文理学部は約70%と高く，福島県のテクノポリス郡山にある工学部で31.3%，千葉県松戸市にある松戸歯学部で38.6%，静岡県三島市にある国際関係学部で40.2%と低くなっています。

自宅通学者比率の経年変化を見ると，平成９年度の55.3%から毎回増加傾向にあり，平成21年度に若干減少したものの平成24年度は３年前より2.2ﾎﾟｲﾝﾄ増加しています。景気の長期低迷が続く中，自宅通学により家計の負担軽減を図る家庭が増加していることが推察されます。

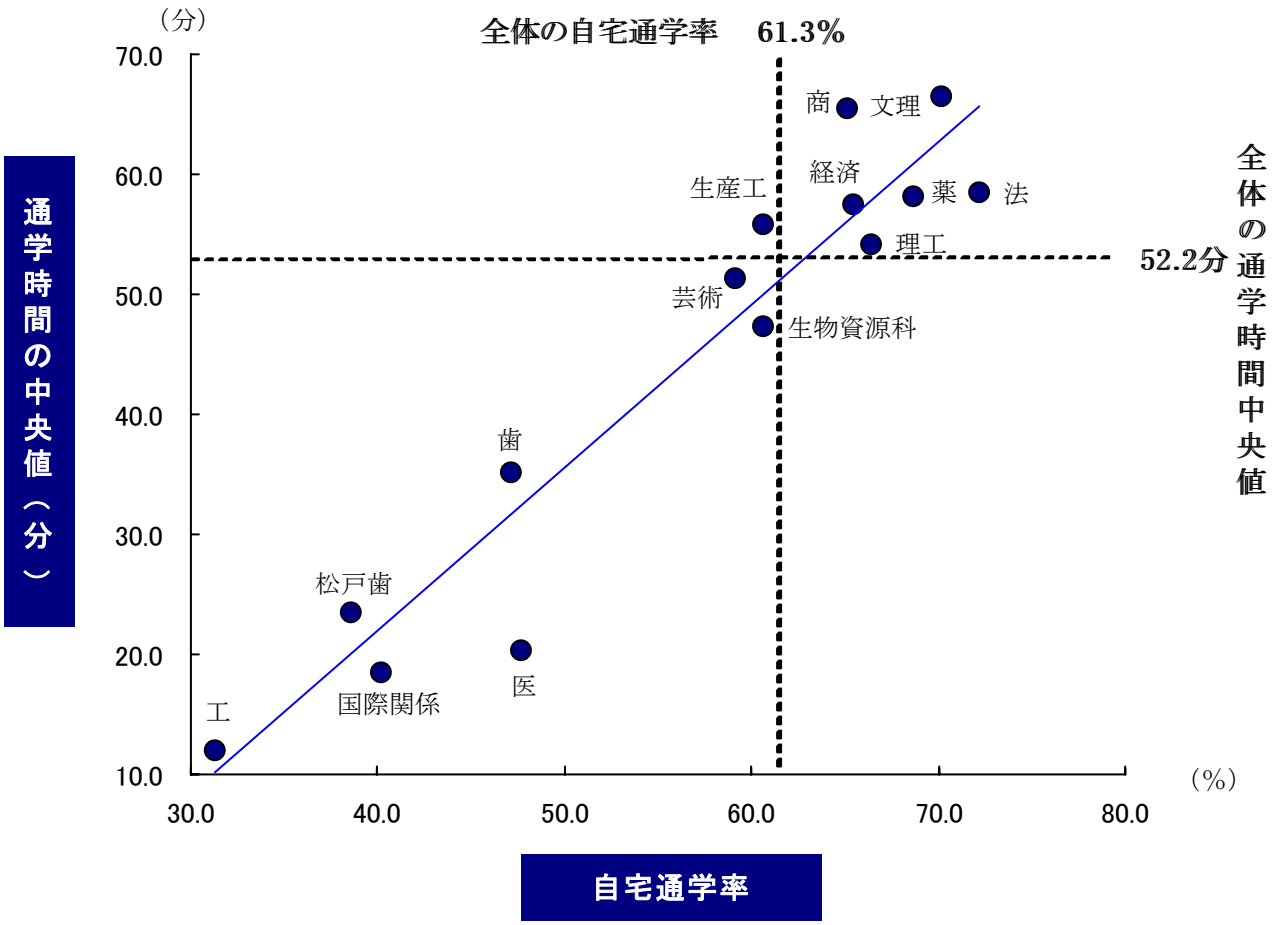
自宅通学者比率



5.通学時間

通学時間の中央値は52.2分。文理学部の66.5分から工学部の12.0分まで学部により差。
自宅通学率が高い学部ほど通学時間が長い傾向が顕著。

本学学生の通学時間は「15分以内」が19.7%，「16～30分」が12.7%で30分以内が32.4%，「31～60分」が24.3%で１時間以内が56.7%となっています。通学時間が１時間半を超える学生も18.0%います。本学学生全体の通学時間の中央値を求めると52.2分となります。

通学時間の中央値は，学部によりバラつきが大きく，文理学部（66.5分）と商学部（65.5分）では１時間を超えていますが，工学部（12.0分）・国際関係学部（18.5分）・医学部（20.4分）・松戸歯学部（23.6分）では短くなっています。キャンパスに近いところにあるアパート・マンション居住者に比べると自宅通学者はより遠方から通学していると考えられます。そこで，学部ごとに，通学時間の中央値と自宅通学率の関係を下図に示しました。通学時間は自宅通学率が高い学部ほど長いという傾向が顕著に見られました。両者の相関係数は0.954と非常に高い数値となっています。

学部別，平均通学時間と自宅通学率の相関図